

2022年8月10日

社員各位

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会
会長 河合俊宏

2022年度定時社員総会のお知らせ

拝啓 時下ますますご清祥の事とお慶び申し上げます。

さて、本協会の2022年度定時社員総会を下記の通り開催しますので、ご案内申し上げます。

今年度も、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止の観点から、会長以下最小限の人数で実施することとし、代議員並びに正会員の皆様には、**原則として、定款第29条及び社員総会規則第6条の規定に基づく、書面による「議決権行使」又は「委任」での参加**とさせていただきたく、お願いいたします。

同封の「議決権行使書」に議決をご記入いただくか、「委任状」に必要事項をご記入いただき、ご署名又はご記名・押印の上、8月28日(日)必着で同封の返信用封筒を用いて郵送又はFAXにてご返送くださいますようお願いいたします。「議決権行使書」と「委任状」を両方ご提出された場合は、「議決権行使書」を優先いたします。

総会資料をご確認いただき、ご質問のある方は、所属と氏名を明記の上、下記の質問フォームまたはFAXにて送信をお願いいたします。今回は、委任状を提出される場合であっても提案事項にかかるご意見等をお受けいたします。忌憚のないお考え、ご質問をお願いいたします。8月28日到着分まで受付し、ご質問に対するお答えは総会及び協会誌にてお伝えいたします。その際は、質問者の所属と氏名を公開いたしますのでご了承ください。

今回も会長以下最小限の人数で実施することもあり、Zoom ウェビナーによるライブ配信を準備しています。定時社員総会の視聴を希望される方は、下記よりお申込みください。別途、ご案内させていただきます。

・質問・意見等の専用フォーム
・視聴申込みの専用フォーム
・FAX:045-353-8365

} 協会ホームページ新着情報に URL 掲載



質問・意見



総会視聴

質問者の個人情報につきましては、総会及び一般社団法人日本リハビリテーション工学協会の活動にのみ利用し、外部へ情報提供することはありません。

敬具

記

日時: 2022年9月3日(土) 11:00~12:00

場所: 新横浜ホール 加瀬ビル88 8階 第6会議室 (神奈川県横浜市港北区新横浜3-19-11)

議案:	第1号議案	2021年度事業報告(案)	【資料1】
	第2号議案	2021年度決算報告(案)／監査報告	【資料2】【資料3】
	第3号議案	2022年度事業計画(案)	【資料4】
	第4号議案	2022年度収支予算計画(案)	【資料5】
	第5号議案	自主行動基準(案)	【資料6】
			以上

【お問い合わせ先・議決権行使書または委任状 返送先】

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 事務局 (〒235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田 2-7-20)

2022年度定時社員総会 資料集

第1号議案 2021年度事業報告(案)	【資料1】	P 1～
第2号議案 2021年度決算報告(案)／ 監査報告	【資料2】【資料3】	P14～
第3号議案 2022年度事業計画(案)	【資料4】	P24～
第4号議案 2022年度収支予算計画(案)	【資料5】	P37
第5号議案 自主行動基準(案)	【資料6】	P38～

【 お問い合わせ先 ・ 議決権行使書 または 委任状 返送先 】
一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 事務局
〒235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田 2-7-20

第1号議案 2021年度事業報告

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2021年度の経過

2021年度の事業も新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止に、大きく影響を受けました。

リハ工学カンファレンスについては、2021年度のWeb会議システムでの開催、2022年度もWeb会議システム利用を決めて準備し、開催を目前にしています。

福祉機器コンテストについては、特別協賛のフランスベッド株式会社様をはじめとした協賛企業様にご支援いただき、募集・選考をすすめました。

協会誌はVol.36 No.3からVol.37 No.2まで4回発行しました。特集内容は多岐にわたり、論文投稿もありました。電子化によるアクセスの向上も進みました。

分科会・専門委員会関連事業として、SIG(Special Interest Group)関連は基本的に内部化についての理解は得られたので、さらなる調整で2022年度からの法人内移行を目指します。

地域支部はWeb会議システムを利用して、企画した支部のイベントに、離れた地域からも参画できる仕組みが実証されました。協会本部主導によるイベント、リハ工 ミライ・アッセンブリーとも今後は連携を進めます。

災害対策に関しては、委員会が積極的に動いています。一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会(JRAT)と連動する意味は大きいと感じています一方で、協会が果たすべき案件を投げかけられている部分があります。委員会主導で協会として何ができるのか検討します。

企画推進事業は、先のリハ工 ミライ・アッセンブリーを新たに始めることが出来ました。会員向けに限らない情報発信の場として、定期的で開催します。地域支部はもとより今後はSIGとの連携も検討します。なおこれまでの全国頸髄損傷者連絡会との頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査より、「頸損解体新書2020最終報告会」を開催しました。また「第9回合同シンポジウム」も開催しました。

国際連携では、GAATO(Global Alliance of Assistive Technology Organizations)加盟団体として、総会、理事会に参加し、GAATOが進める支援機器の効果に関する国際的な検討、世界保健機構(WHO)との協力・連携事業にも積極的に参加してきました。アジアでの国際会議も対面式を基本に、進められています。

総務関連では、協会が一般社団法人としての内部に抱える課題を更に解消していきます。個人情報保護、特定商取引等、多くの懸案がありますが、より適切な活動を進めます。インボイス等の国の動きにも対応して、適切な財務体制を、いま一度徹底して参ります。事務局の強靱化に関しても、さらなる検討をします。

以上、2021年度の事業の概要について、ご報告させていただきました。最後になりましたが、2021年10月の個人情報管理の問題は、2月から新しい会員番号の付与ということで、いくつかの対策を実施しました。一方で、周知には問題もあり、ご心配に加え、お手数をおかけしました。重ねてお詫び申し上げます。対策はまだ十分に完了していません。継続して実施していますので、あらためてご報告します。新体制となり、ある意味彷徨いながらも、活動だけは止めることなく進めてきました。会員の皆様にご感謝し、事業概要の報告を終わらせていただきます。

会長 河合俊宏

1. 社員・会員

1-1. 法人社員・会員

2021年7月1日 正会員 590名(うち社員(代議員)68名)、学生会員 2名
賛助会員数 15社(47口)

2022年6月30日 正会員 597名(うち社員(代議員)68名)、学生会員 6名
賛助会員数 14社(44口)

2. 事業

本協会の主たる事業は、リハ工学カンファレンスの開催、福祉機器コンテストの実施、協会誌の発行、SIG 活動及び委員会活動である。以下に、各事業の 2021 年度の活動を報告する。

2-1. リハ工学カンファレンス関連(担当理事:鈴木太・山田賀久)

1)第 35 回リハ工学カンファレンス準備

1年延期となった第 35 回リハ工学カンファレンス in 北九州の開催準備を行った。

- ・ 会期:2021年(令和3年)9月25日(土)~26日(日)
- ・ 会場:Web 会議システム
- ・ 大会テーマ:リハ工学で支える 新しいライフスタイル
- ・ 大会長:繁成剛氏(長野大学)
- ・ 実行委員長:中村詩子氏(北九州市立総合療育センター)

2)第 36 回リハ工学カンファレンス準備

第 36 回リハ工学カンファレンス from 中国・四国支部を開催すべく準備を行った。

- ・ 会期:2022年(令和4年)8月20日(土)~21日(日)
- ・ 会場:Web 会議システム
- ・ 大会テーマ:リハ工学が変える!住み続けられるまちづくり
- ・ 大会長:鈴木太氏(愛媛県障害者連合会)
- ・ 実行委員長:谷口公友氏(広島国際大学)

3)カンファレンス講演論文集電子公開検討

- ・ 会員へのメリット、講演論文集販売状況、在庫管理経費などを検討材料に、カンファレンス講演論文集を協会ホームページへ電子公開できるよう検討を行った

2-2. 福祉機器コンテスト関連(担当理事:村田知之)

1)福祉機器コンテスト 2021

- ・ 学生部門一次選考会の開催 応募 19 作品(会員 3 件、非会員 16 件)
2021年7月20日(火)を締切とし選考委員による投票
書類・ビデオ審査により 10 件を一次選考会通過とした
- ・ 機器開発部門・学生部門二次選考会の開催 2021年8月8日(日)
機器開発部門:プレゼンテーション及び実機による審査
学生部門:実機による審査
於:Web 会議システム
- ・ 発表:第 35 回リハ工学カンファレンス in 北九州のプログラム内 2021年9月26日(日)
於:Web 会議システム
- ・ 表彰:第 35 回リハ工学カンファレンス in 北九州のプログラム内 2021年9月26日(日)

於:Web 会議システム

- ・ 展示、広報:
協会ホームページへの掲載、会員 ML での配信、協会誌への掲載、SNS 協会公式アカウントへの投稿

キッズフェスタ 2022(報告) 2022 年 4 月 16 日(土)~17 日(日)

於:東京流通センター第一展示場(東京都)

バリアフリー2022(展示・報告) 2022 年 6 月 8 日(水)~10 日(金)

於:インテックス大阪(大阪府)

2)福祉機器コンテスト 2022

- ・ 福祉機器コンテスト 2022 事務局の設置 2022 年 3 月 1 日(火)
- ・ 選考委員会の設置 2022 年 4 月 1 日(金)
- ・ 後援団体への後援名義使用申請、企業への協賛依頼
- ・ 福祉機器コンテスト 2022 広報開始 2022 年 5 月下旬から
- ・ 福祉機器コンテスト 2022 機器開発部門(締切 2022 年 6 月 20 日(月))
学生部門(締切 2022 年 6 月 30 日(木))募集開始
- ・ 機器開発部門一次選考会の開催 応募作品 26(会員 5、非会員 21 件)
(福祉機器コンテスト 2021 機器開発部門の応募作品は 20 件(会員 6 件、非会員 14 件)
2022 年 6 月 25 日(土)に書類・ビデオ審査により 12 件を一次選考会通過とした
- ・ 展示、広報:
協会ホームページへの掲載、会員 ML での配信、協会誌への掲載、SNS 協会公式アカウントへの投稿
キッズフェスタ 2022(広報) 2022 年 4 月 16 日(土)~17 日(日)
於:東京流通センター第一展示場(東京都)
バリアフリー2022(広報) 2022 年 6 月 8 日(水)~10 日(金)
於:インテックス大阪(大阪府)

3)コンテスト発展のための取組

- ・ Web 会議システムの活用
- ・ 運営方法の見直し
- ・ 協会ホームページへの掲載、会員 ML での配信、協会誌への掲載、SNS 協会公式アカウントへの投稿など広報への活用

2-3. 協会誌関連(担当理事:石濱裕規・植田瑞昌)

1)編集委員会

年 4 回開催し、うち 1 回は東京大学先端研とのハイブリッド開催とした。その他、臨時編集委員会を随時開催した。

2)協会誌発行

以下について、企画・準備・発行を実施した。

- ・ Vol.36 No.3 2021/8 特集「ケア現場の組織づくりのための労働安全衛生 ～ノーリフティングケアの取り組み～」
- ・ Vol.36 No.4 2021/11 特集「すべての人が気持ちよい排泄を –用具がつなぐコンチネンスケア–」

- ・ Vol.37 No.1 2022/2 特集「10 年後に向けて、脊髄損傷の再生医療とリハビリテーションの取り組み」
- ・ Vol.37 No.2 2022/5 特集「旅に出る」
- ・ Vol.37 No.3 2022/8 特集「教育と VR テクノロジーの発展について(仮)」
- ・ Vol.37 No.4 2022/11 特集「生活を支えるスマホ・タブレット型端末によるアプリ・IoT(仮)」

今後の刊行予定につき意見交換を進めた。

- ・ Vol.38 No.1 2023/2 特集「高齢者の移動を支援する福祉用具(仮)」
- ・ Vol.38 No.2 2023/5 特集「摂食嚥下(仮)」
- ・ Vol.38 No.3 2023/8 特集「車椅子・シーティング関連(仮)」
- ・ Vol.38 No.4 2023/11 特集「入浴(多職種協同)(仮)」

3)投稿論文(査読依頼)

- ・ 2021 年度投稿 7 件の査読者選定・(再)査読依頼・結果通知を進めた。Vol.37 No.1 掲載済 1 件、Vol.37 No.2 掲載済 2 件、Vol.37 No.3 掲載予定 1 件、査読後著者修正中 1 件、第 3 査読中 1 件、掲載不可 1 件、査読期間は短縮傾向
- ・ 査読委員公募を協会ホームページ、協会誌上にて行ったが公募者はなく、従来の SIG 依頼に加え、担当理事・編集委員経験者・査読経験者への打診を進めている

4)協会誌の段階的電子化

- ・ 協会誌 J-STAGE(科学技術情報発信・流通総合システム)アクセス状況、近接領域他誌動向の集計調査結果を提示し、編集委員会に公開形態に関するアンケートを実施した
- ・ 次号刊行に併せたバックナンバー電子公開準備、紙媒体協会誌の電子化を進めた

5)その他

- ・ 医中誌 Web より、当誌掲載論文の要旨の利用依頼があり、審議の結果、医中誌と契約を締結することに賛成多数となった
- ・ 当誌掲載記事の許容される二次掲載(二次出版)について、ICMJE(医学雑誌編集者国際委員会)統一投稿規定、Creative commons License 等の検討を進めた
- ・ 協会誌広告の減少に伴い、広告募集のあり方の見直しを進めた
- ・ 編集委員会幹事より退任のご意向があり、今後の協会誌編集委員会のあり方について、検討を進めた

2-4. 分科会(SIG)(担当理事:桂律也)

1)SIG 活動支援

2021 年度は、SIG 講習会などの活動も再開され、協会誌やホームページへの掲載などの広報活動の支援を実施した。また、リハ工 ミライ・アッセンブリー及びリハ工学カンファレンスなどの協会主催事業に対する各 SIG の協力要請も実施した

- ・ 現在法人外の協力 SIG とは、引き続き内部化に向け調整を行い、2022 年度中に内部 SIG を設立し、現在の任意団体 SIG は残務処理を行い、解散する方向で基本的な合意は形成された。協力 SIG のうち、義肢装具 SIG は、内部 SIG 設立申請が提出され、2022 年度からの活動が承認された。また、移乗機器 SIG については、2021 年度で任意団体 SIG は解散し、2022 年度に内部 SIG 設立の方針となった

2)SIG の位置づけ検討委員会

- ・ 協力 SIG の内部化に向けた課題を整理し、作成済みの趣意書・覚書ひな形を確定した

2021年度SIG活動報告 期間:2021年7月~2022年6月

※SIG会員数(協会員数)は2021年6月1日現在

SIG 姿勢保持	http://www.resja.or.jp/posi-sig/	会員数:125名(30名)
代表者:繁成剛(長野大学)	事務局長:児玉真一	
<ul style="list-style-type: none"> ・Webサイト運営、会員専用MLへの情報発信、協会事業への協力 ・書籍(小児から高齢者までの姿勢保持・第2版)や資料集PDF版の販売 ・講習会:2022年6月12日(日) オンライン配信 主会場:四天王寺和らぎ苑 ・講習会イベント:2022年3月20日(火) オンライン配信 主会場:四天王寺和らぎ苑 		
車いす SIG	https://www.resja.or.jp/wc-sig/	会員数:48名(36名)
代表者:沖川悦三(神奈川県総合リハビリテーションセンター)	事務局長:深野栄子	
<ul style="list-style-type: none"> ・Web会議システムによる役員会開催(8回) ・第50回車いすSIG講習会(Web会議システム) 「車椅子シーティング ~評価に基づいた車椅子の実現~」の開催 2021年11月6日(土) ・車いすSIG講習会50回開催記念大会(2022年9月)の準備、講師打ち合わせ2回 ・Webサイト運営、分科会(BOG)活動、大規模災害復興支援、協会事業への協力 他 		
自助具 SIG	ホームページなし	Facebook登録会員46名(46名)
代表者 事務局長:岡田英志		
<ul style="list-style-type: none"> ・3Dプリンター研究会立ち上げ検討グループ設立(第36回リハ工学カンファレンスセミナー参加準備中) ・自助具貸出事業 1件(会員の岩崎氏による西九州大学での講義) 		
乗り物 SIG	https://ameblo.jp/sunrisejp007/	会員数:5名(5名)
代表者:越澤孝((有)セカンドステージ)	事務局長:片石任(株式会社フロンティア)	
<ul style="list-style-type: none"> ・SIGブログの更新、充実、修正検討、情報提供・発信 		
SIG 褥そう防止装置	http://www.resja.or.jp/sig-pmps/	会員数20名(10名)
代表者・事務取扱:新妻淳子(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)		
<ul style="list-style-type: none"> ・COVID19下のシーティングクリニック開催に関する注意事項の啓もう活動を行った。 ・第36回リハ工学カンファレンスイベントへのパネリストの派遣を行った。 		
コミュニケーション SIG	http://www.resja.or.jp/com-sig/	会員数67名(20名)
代表者:渡辺崇史(日本福祉大学)	事務局長:上野忠浩(横浜市総合リハビリテーションセンター)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ修正検討 		
SIG 住まいづくり	http://www.resja.or.jp/sumai-sig/	会員数:55名(38名)
代表者:橋本美芽(東京都立大学)	事務局長:鈴木基恵(横浜市総合リハビリテーションセンター)	
<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン勉強会「復興公営住宅における高齢者・障害者への配慮の実態~宮城県における設計・監理の現場から~」開催(2022年6月4日:参加者26名) ・協会事業への協力 		
特別支援教育 SIG	ホームページなし	会員数:5名(5名)
代表者:松田靖史(川村義肢株式会社)	事務局長:高原光恵(鳴門教育大学)	
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援関連事例の収集(教材、資料) ・協会事業への協力 		
移乗機器 SIG	http://www.reha.kobegakuin.ac.jp/~hp-reha/transfer/	会員数:66名(15名)
代表者:古田恒輔(神戸学院大学)	事務局長:青木久美子	
<ul style="list-style-type: none"> ・役員会開催 7回 ・総会開催(6月12日) ・6月末日にて解散 		

義肢装具 SIG	http://www.resja.or.jp/po-sig/	会員数:82名(25名)
代表者:笹川友彦(熊本総合医療リハビリテーション学院)	事務局長:砂野義信(フリーランス)	
・義肢装具SIG ホームページ運営		

2-5. 分科会(支部)・専門委員会(担当理事:植田瑞昌)

2021年度支部活動支援を行った。今年度は各支部においてイベントを開催する機会が増えた。

また、研修企画委員会と連携し、第1回リハ工 ミライ・アッセンブリーの準備、開催を行った。第2回に向け打ち合わせ等を行い、支部活動を支援した。

詳細は、「支部の2021年度事業報告」として別紙に示す。

2-6. 企画推進事業(企画担当理事:伊佐拓哲/事業統括担当理事:中村俊哉)

1)学会展示会、広報活動強化

- ・ バリアフリー2021 出展
- ・ リアル展示会(2021年8月25日(水)~27日(金))
- ・ バリアフリーONLINE-オンライン展示会-(2021年9月6日(月)~21日(火))
- ・ バリアフリー2022 出展
- ・ リアル展示会(2022年6月8日(水)~10日(金))
- ・ バリアフリーONLINE-オンライン展示会-(2022年5月16日(月)~7月29日(金))

2)セミナー開催

- ・ バリアフリー2022におけるバリアフリーONLINE-オンラインセミナー
タイトル/講師:「障害者の運動習慣を考える」/伊佐拓哲
(バリアフリー2022 主催者による動画配信:2022年5月16日(月)~7月29日(金))

3)頸損解体新書 2020 発行と最終報告会の実施

- ・ 「頸損解体新書 2020」を会員へ向け発送
- ・ 頸損解体新書 2020 完成報告会
日時:2021年10月24日(日)13:00~16:30(オンライン配信)

4)合同シンポジウムの開催

- ・ 「障害当事者とコロナ禍を考える」
日時:2022年5月28日(土)13:00~15:40(オンライン配信)
主催:日本リハビリテーション工学協会/全国頸髄損傷者連絡会

5)新たな会員獲得及びリハ工学に関する知識や技術の普及促進

新たな会員獲得に向け各支部の開催協力のもと連続セミナーを企画、「リハ工 ミライ・アッセンブリー」と題し、第1回を九州支部の協力のもと開催した。

- ・ 第1回リハ工 ミライ・アッセンブリー「最新機器アップデート」
日時:2022年3月2日(水)18:00~19:00(オンライン配信)

2-7. 国際関連の事業(担当理事:森田千晶)

- ・ GAATO の理事として国際関連推進委員井上剛伸氏(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)と桂理事が総会と理事会に参加した
- ・ 2021年9月25日(土)、26日(日)に Web 会議システムにて開催された第35回リハ工学カンファレンス北九州の国際セッションにおいて、GAATO 会長の Witte 氏のビデオメッセージを紹介した

- ・ 2021年8月4日(水)、11日(水)に開催された GAATO「支援機器の利用効果に関するワークショップ」西太平洋地域会議(Web 会議システム)に協会から井上剛伸氏、桂理事、森田理事がまとめ役となり、国内の支援機器関係者 41 名(同日延べ人数)とともに議論した。その結果は世界各地域(50 か国 307 名)の結論を統合し”AT Outcomes and Impact Challenge Consultation”として WHO に報告された
- ・ i-CREaTe2021 タイ、i-CREaTe2022 香港について開催要項などの情報をホームページに掲載した

2-8. 災害対策関連(担当理事:早川康之・桂律也)

1)災害対策リハ工学セミナーの開催

2019 年まで実施していた災害対策リハ工学セミナーについて、2021 年度、災害対策委員会で開催を検討した。しかし、2020 年度に続きコロナ禍が継続した状況であり、2021 年度も見合わせるようになった。

2)災害対策委員会の常設及び運営と大規模災害時の協会の対応

2021 年度、災害対策委員会が常設され、委員会としての活動を始めた。2 回の会議を開催し、災害対策委員会の方針について検討した。十分な結論には至っていないが、ある程度の方針がまとまった。今後、JRAT を含めた災害対策に関連する他団体との連携について、状況把握とともに連携について検討していく。一方、JRAT 活動については、理事会、研修委員会、広報委員会、組織化委員会、局地災害地域リハ移行 WG、災害時福祉用具等提供 WG などに委員が参加し、積極的な活動を行っている。

JRAT 以外の他団体との連携については、今後の課題となる。

3. 総務

3-1. 選挙・規則(担当理事:江原喜人)

1)2021 年度役員候補者選挙

- ・ 2021 年度代議員選挙ならびに役員候補者選挙において選挙管理委員会に対するサポートを行った

2)規定の整備

- ・ 個人情報取扱規則および個人情報保護方針を作成し、理事会承認をもってホームページ並びに協会誌に公開した
- ・ 個人情報保護に関する各種規程(案)の作成を行った
(個人情報取扱いシステム運用管理規程、緊急事態対応規程、リスク対策管理規程)
- ・ 個人情報漏洩事象への対応として、会員番号の変更を行った

3-2. 財務(担当理事:岡野善記)

1)法人会計の管理

- ・ 2021 年度決算書作成
- ・ 2021 年度決算の実施
- ・ 2022 年度予算案の提案
- ・ 四半期決算の実施
- ・ カンファレンス貸付金の整理

2)分科会・支部の連結決算の準備

- ・ 現状把握
- ・ 会計システムの構築

3-3. 総会・理事会(担当理事:中村詩子)

1)2021 年度社員総会

- ・ 2021 年度定時社員総会
日時:2021 年 8 月 28 日(土)、13:30~14:30
場所:グランフロント大阪タワー(オンライン配信)
- ・ 2021 年度臨時社員総会
日時:2021 年 9 月 19 日(日)、10:30~10:45
場所:新横浜ホール 加瀬ビル 88 第7会議室(オンライン配信)

2)2021 年度理事会

2021 年度第 1 回(通算第 69 回)~第 10 回(通算第 78 回)理事会を以下日程で、Web 会議システムを用いて開催した。

開催日:2021 年 7 月 18 日(日)、8 月 2 日(日)、8 月 23 日(月)、8 月 28 日(土)、8 月 28 日(土)
10 月 10 日(日)、12 月 12 日(日)、2022 年 2 月 12 日(日)、3 月 13 日(日)、6 月 13 日(日)

3)2022 年度社員総会の準備

2022 年度定時社員総会の開催について、各理事に「2021 年度事業報告」及び「2022 年度事業計画書・予算要求書」の提出を依頼し、「2021 年度事業報告(案)」及び「2022 年度事業計画(案)」の作成を行った。

3-4. 広報・渉外(担当理事:杉本昌子・鈴木太)

1)協会リーフレット

増刷なし

2)Web 会議システムの利用

- ・ Zoom ミーティング:理事会、各委員会、統括会議、各イベント打合せ、各イベント実施等に利用
- ・ Zoom ウェビナー:総会、合同シンポジウムの準備・運営

3)Web 管理委員会

- ・ ホームページ更新
- ・ 会長挨拶文改定
- ・ YouTube 動画投稿
- ・ 公式 Facebook 投稿
- ・ Xserver Drive にデータ移行
- ・ 個人情報保護に関する協会ホームページお知らせ
- ・ 特定商取引法に関する協会ホームページ表示
- ・ 協会公式 SNS 運用検討

4)その他

- ・ 学生研究支援
- ・ 各種問合せ対応
- ・ 新たな会員管理システムの検討

4. 事務局(事務局統括理事:江原喜人)

1)事務局運営

- ・ 法人としての事務局を運営し、法人会計の更なる整備を進めた

2)各事業における活動

- ・ 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止の観点から、展示会が中止または Web 展示会となったため、ブース出展がなく広報活動は行えなかった

5. 後援・協賛事業

2021年度は以下の事業の後援・協賛を行った。

No.		団体名	開催日程	内容
1	後援	一般社団法人日本作業療法士協会	2021/9/10~12 (現地開催) 2021/9/13~10/13 (オンライン配信)	第 55 回日本作業療法学会
2	協賛	特定非営利活動法人 ヒューマンインタフェース学会	2021/9/15~17 (オンライン開催)	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2021
3	後援	一般社団法人日本機械学会、一般社団法人ライフサポート学会、一般社団法人日本生活支援工学会	2021/9/16~18	LIFE2020-2021
4	後援	特定非営利活動法人 医療ネットワーク支援センター	2021/10~2022/3	第 9 回ウェルフェアデザインコンテスト
5	協賛	西日本国際福祉機器展実行委員会	2021/11/18~20	P.P.C.2021 第 23 回西日本国際福祉機器展
6	後援	特定非営利活動法人日本シーティング・コンサルタント協会	2021/11/20~21	第 16 回日本シーティング・シンポジウム
7	協賛	バイオメカニズム学会	2021/11/27~28	第 42 回バイオメカニズム学術講演会
8	協賛	感覚代行研究会	2021/12/6~10 (オンライン開催)	第 47 回(2021 年)感覚代行シンポジウム
9	協賛	公益社団法人計測自動制御学会	2021/12/15~17 (オンライン開催)	第 22 回 SICE システムインテグレーション部門講演会
10	後援	特定非営利活動法人 バイオフィリアリハビリテーション学会	2022/2/28	第 25 回バイオフィリアリハビリテーション学会大会
11	協力	経済産業省製造産業局	2022/4/11~6/30	第 10 回ロボット大賞
12	後援	第 3 回福祉用具専門相談員研究大会	2022/6/16 (ハイブリッド開催)	第 3 回福祉用具専門相談員研究大会

【別紙】

支部の2021年度事業報告

東日本支部

支部活動のための体制の構築が困難な状況が続き、特別な活動ができていなかった。引き続き会員への情報発信ができるように検討を行う。

関東・甲信越支部

1)事業概要

コロナ禍の関東・甲信越支部活動として、災害対策キャンプをテーマに Web 会議システム等を用いたイベントを試行した。

2)主要事業

災害対策キャンプの企画・運営

- ・ イベント名:災害対策キャンプ 第2弾

日時:2022年3月21日(月・祝)

場所:神奈川県・千葉県のキャンプ場(現地と Web 会議システムを併用)

内容:神奈川県と千葉県での「災害対策キャンプ」として、それぞれ地域で実際にキャンプをしている方を Web 会議システムで繋ぎ「食事」について参加者間で意見交換を実施した

3)他学会等の事業への後援・協賛・協力

なし

4)その他

支部役員会の開催

- ・ 日時:2021年6月15日(火)20:00～

場所:Web 会議システム

内容:2020年度の報告と2021年度の活動内容について

- ・ 日時:2021年11月23日(火)19:00～

場所:Web 会議システム

内容:2021年度の活動計画・予算の確認、支部代表者会議報告、個人情報の取扱いについて

災害対策キャンプの企画について

- ・ 日時:2021年12月22日(水)20:00～

場所:Web 会議システム

内容:災害対策キャンプの企画について

- ・ 日時:2022年2月1日(火)20:00～

場所:Web 会議システム

内容:災害対策キャンプの企画について、ライトニングトーク(LT)イベントについて

ライトニングトークイベントの開催

- ・ 日時:2022年2月23日(水)11:00～12:00

場所:Web 会議システム

内容:災害対策キャンプの事前企画として「災害非難想定キャンプ、その前の事、保存食自慢」をテーマとしたライトニングトーク(LT)イベントを試行した

中部支部

1)事業概要

中部支部では、2021 年度支部セミナーを開催し、リハビリテーション工学に関わる研究や情報の普及・啓発を図った。

2) 主要事業

支部セミナーの開催

- ・ デジタルものづくりワークショップ ～3D プリンターで自助具制作～
テーマ:「3D プリンターを使ったものづくりの基礎、設計・製作実習など(基礎編)」
開催日:2021 年 8 月 14 日(土)13:30～17:30
場所:なごや福祉用具プラザ
参加者:19 名
講師:渡辺崇史氏(日本福祉大学)、長束晶夫氏(なごや福祉用具プラザ)
※名古屋市総合リハビリテーション事業団なごや福祉用具プラザ、日本福祉大学福祉テクノロジーセンターとの共催
- ・ 金沢福祉用具情報プラザ オンライン見学会
テーマ:「福祉用具コレクション 最新福祉用具展示会のオンライン見学会」
開催日:2022 年 1 月 30 日(日)10:00～11:30
場所:金沢福祉用具情報プラザ及び Web 会議システム
参加者:23 名
講師:城野友哉氏、本田優介氏(金沢福祉用具情報プラザ)、北野義明氏(石川県リハビリテーションセンター)
※金沢福祉用具情報プラザとの共催

3)他学会等の事業への後援・協賛・協力

なし

4)その他

支部役員会の開催

- ・ 日時:2021 年 5 月 22 日(土)10:00～11:30
場所:Web 会議システム
内容:支部活動での企画についての協議、2021 年度の事業の打ち合せ等
- ・ 日時:2022 年 1 月 29 日(土)18:30～19:30
場所:Web 会議システム
内容:支部活動での企画についての協議、2021 年度の事業の打ち合せ等

関西支部

1)事業概要

関西支部では、2021 年度はバリアフリー2021、及びバリアフリー2022 出展への協力を行った。

また、協会が主催するリハエ ミライ・アッセンブリーへの企画提案を行い、2022 年度内の実施に向けて調整中である。

2)主要事業

- ・ 支部セミナーの開催 2021 年度は実施していない
- ・ バリアフリー2021 のブース運営協力

開催日:2021年8月25日(水)~27日(金)10:00~17:00

場所:インテックス大阪6号館

内容:支部スタッフの派遣

- ・ バリアフリー2022 ブース運営協力

開催日:2022年6月8日(水)~10日(金)10:00~17:00

場所:インテックス大阪6号館

内容:支部スタッフの派遣

3)他学会等の事業への後援・協賛・協力

なし

4)その他

なし

中国・四国支部

1)事業概要

中国四国支部では、2021年度予定していた支部セミナーを第36回リハ工学カンファレンスのプレカンファとして実施した。また、定期的な支部ミーティングをオンラインにて実施した。

2)主要事業

- ・ バリアフリー2021にて動画配信

開催日:2021年9月6日(月)~9月21日(火)配信

場所:Web会議システム

テーマ:「当事者こそが変わる!人手不足の介護現場」

講師:鈴木太理事、谷口公友氏、下元佳子氏

(2)プレカンファレンスの開催

- ・ 第36回リハ工学カンファレンスプレカンファ from 四国・中国支部

テーマ:「リハ工が変わる!頸損父ちゃんの生活をまる裸」

開催日:2022年3月26日(土)13:30~16:30

場所:Web会議システム

参加者:60名

講師:鈴木太理事

※各SIGの皆さんに協力を得てSIGの使用している福祉用具に関連することや生活へのアドバイスをいただく形を取り、カンファレンスだけでなくSIGの紹介も行った

3)他学会等の事業への後援・協賛・協力

なし

4)その他

支部役員会の開催

- ・ 第1回 2021年8月10日(火)18:30~20:00
 - ・ 第2回 2021年10月12日(火)18:30~20:00
 - ・ 第3回 2021年11月21日(日)18:00~20:00
- 【以下カンファレンスの準備のための会議として実施】
- ・ 第4回 2021年12月9日(木)18:30~20:00
 - ・ 第5回 2022年2月8日(火)18:30~20:00

- ・ 第6回 2022年3月10日(木)18:30~20:00
場所:Web会議システム
内容:
第1回 2021年度の事業報告・決算報告、2022年度の事業計画案・収支予算案について
第2回 第36回リハ工学カンファレンスについて中国・四国支部での開催を検討
第3回 中国・四国支部で開催を前提にカンファレンステーマ・日程の決定

九州支部

1)事業概要

第23回西日本国際福祉機器展にてオフラインミーティングを開催した。

また、第1回リハ工 ミライ・アッセンブリー(3月2日(水))にて、オフラインミーティングでの様子を動画配信しながら、展示品について意見の交換を行った。

2)主要事業

- ・ オフラインミーティングの開催
第23回西日本国際福祉機器展にて
開催日:2021年11月20日(土)10:30~16:00
場所:西日本総合展示場
参加者:20名程度
日本リハビリテーション工学協会九州支部の旗を提示しながら、展示品について説明を受けたり体験したり、意見交換を行った。協会の概要とリハ工学とは何かということについても、話し合いながら楽しく巡回した。
- ・ 第1回リハ工 ミライ・アッセンブリーへの協力
テーマ:最新機器アップデート(福祉機器展オフラインミーティングでの出展品の一部紹介と意見交換)
開催日:2022年3月2日(水)18:00~19:00
場所:Web会議システム

3)他学会等の事業への後援・協賛・協力

なし

4)その他

支部役員会の開催

メーリングリスト「koy-branch-ml@resja.or.jp」にて適宜開催した。

第2号議案 2021年度決算報告(案)／監査報告

「決算報告書」(貸借対照表、損益計算書、事業費・管理費内訳書)及び補助資料として「比較決算報告書」(貸借対照表、損益計算書、販売費・一般管理費内訳書)をご覧ください。

決 算 報 告 書

自 令和 3年 7月 1日

至 令和 4年 6月 30日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

貸借対照表

(単位：円)

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

令和 4年 6月30日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流 動 資 産】	14,323,063	【流 動 負 債】	3,821,700
現金及び預金	10,617,240	前受会費等	1,650,000
未収入金	380,000	前受金その他	285,000
前払費用	11,901	未払金	51,700
その他流動資産	3,313,922	仮受金	53,000
【固 定 資 産】	10	預り金	1,782,000
(有形固定資産)	10	負債の部計	3,821,700
器具備品	10	正味財産の部	
		【正 味 財 産】	10,501,373
		正味財産	9,584,012
		当期正味財産増加額	917,361
		正味財産の部計	10,501,373
資産の部計	14,323,073	負債・正味財産の部	14,323,073

損 益 計 算 書

(単位：円)

自 令和 3年 7月 1日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

至 令和 4年 6月 30日

科 目	金 額	
【入 会 金 収 入】		11,000
【会 費 収 入】		
一 般 会 費 収 入	5,508,000	
学 生 会 費 収 入	28,000	
賛 助 会 費 収 入	470,000	6,006,000
【事 業 収 入】		
書 籍 頒 布	44,000	
購 読 サービス 会 費	301,250	
協 会 誌 収 入	66,000	
そ の 他 事 業 収 入	21,030	432,280
【雑 収 入】		8,273
収 益 合 計		6,457,553
【事 業 費】		3,542,703
【管 理 費】		1,997,489
費 用 合 計		5,540,192
当期正味財産増加額		917,361

事業費・管理費内訳書

(単位：円)

自 令和 3年 7月 1日

一般社団法人日本パブリケーション工学協会

至 令和 4年 6月30日

科 目	金 額	金 額
【事業費】		
協会誌編集・発行費	2,671,838	
事業開催費	638,428	
活動費	77,385	
活動補助金	△45,951	
会場費	106,920	
広報媒体経費	94,083	3,542,703
【管理費】		
講師謝金	46,775	
公認会計士顧問料	264,000	
会議費	10,500	
会費・参加費	103,880	
交通費	139,704	
通信運搬費	214,723	
事務用品費	26,442	
印刷費	51,325	
事務局備品リース料	26,136	
管理委託費	236,171	
事務委託費	720,000	
支払手数料	21,703	
収納代行手数料	134,980	
その他手数料	1,150	1,997,489
事業費及び管理費		5,540,192

比 較 決 算 報 告 書

自 令和 3年 7月 1日

至 令和 4年 6月 30日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

貸借対照表

(単位：円)

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

令和 4年 6月30日現在

資 産 の 部				
科 目	当 期	前 期	増 減	前期比(%)
【流 動 資 産】	14,323,063	11,917,823	2,405,240	120.2
現金及び預金	10,617,240	8,345,079	2,272,161	127.2
前 払 金	0	274,870	△274,870	-
未 収 入 金	380,000	35,000	345,000	1085.7
前 払 費 用	11,901	9,780	2,121	121.7
その他流動資産	3,313,922	3,253,094	60,828	101.9
【固 定 資 産】	10	10	0	100.0
(有形固定資産)	10	10	0	100.0
器 具 備 品	10	10	0	100.0
資産の部計	14,323,073	11,917,833	2,405,240	120.2

貸借対照表

(単位：円)

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

令和 4年 6月30日現在

負 債 の 部				
科 目	当 期	前 期	増 減	前期比(%)
【流 動 負 債】	3,821,700	4,101,197	△279,497	93.2
前受会費等	1,650,000	1,974,000	△324,000	83.6
前受金その他	285,000	291,250	△6,250	97.9
未払金	51,700	9,571	42,129	540.2
仮受金	53,000	57,000	△4,000	93.0
預り金	1,782,000	1,766,416	15,584	100.9
書類頒布経費(送料等)	0	2,960	△2,960	-
負債の部計	3,821,700	4,101,197	△279,497	93.2
正 味 財 産 の 部				
【正 味 財 産】	10,501,373	7,816,636	2,684,737	134.3
正 味 財 産	9,584,012	5,909,832	3,674,180	162.2
当期正味財産増加額	917,361	1,906,804	△989,443	48.1
正味財産の部計	10,501,373	7,816,636	2,684,737	134.3
負債・正味財産の部	14,323,073	11,917,833	2,405,240	120.2

損 益 計 算 書

(単位：円)

自 令和 3年 7月 1日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

至 令和 4年 6月30日

科 目	当 期	前 期	増 減	前期比(%)
【入 会 金 収 入】	11,000	16,000	△5,000	68.8
【会 費 収 入】	6,006,000	6,448,000	△442,000	93.1
一般会費収入	5,508,000	5,964,000	△456,000	92.4
学生会費収入	28,000	14,000	14,000	200.0
賛助会費収入	470,000	470,000	0	100.0
【事 業 収 入】	432,280	348,000	84,280	124.2
書籍頒布	44,000	101,500	△57,500	43.3
購読サービス会費	301,250	177,500	123,750	169.7
協会誌収入	66,000	69,000	△3,000	95.7
その他事業収入	21,030	0	21,030	-
【雑 収 入】	8,273	863	7,410	958.6
収 益 合 計	6,457,553	6,812,863	△355,310	94.8
【事 業 費】	3,542,703	3,156,301	386,402	112.2
【管 理 費】	1,997,489	1,749,758	247,731	114.2
費 用 合 計	5,540,192	4,906,059	634,133	112.9
当期正味財産増加額	917,361	1,906,804	△989,443	48.1

販売費・一般管理費内訳書

(単位：円)

自 令和 3年 7月 1日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

至 令和 4年 6月30日

科 目	当 期	前 期	増 減	前期比(%)
【事業費】	【 3,542,703】	【 3,156,301】	【 386,402】	112.2
協会誌編集・発行費	2,671,838	3,092,193	△420,355	86.4
事業開催費	638,428	0	638,428	-
活動費	77,385	47,070	30,315	164.4
活動補助金	△45,951	0	△45,951	-
会場費	106,920	0	106,920	-
広報媒体経費	94,083	17,038	77,045	552.2
【管理費】	【 1,997,489】	【 1,749,758】	【 247,731】	114.2
講師謝金	46,775	0	46,775	-
公認会計士顧問料	264,000	264,000	0	100.0
会議費	10,500	0	10,500	-
会費・参加費	103,880	158,860	△54,980	65.4
交通費	139,704	123,140	16,564	113.5
通信運搬費	214,723	96,582	118,141	222.3
事務用品費	26,442	30,366	△3,924	87.1
印刷費	51,325	46,403	4,922	110.6
事務局備品リース料	26,136	26,136	0	100.0
管理委託費	236,171	71,971	164,200	328.1
事務委託費	720,000	720,000	0	100.0
支払手数料	21,703	22,269	△566	97.5
収納代行手数料	134,980	179,481	△44,501	75.2
その他手数料	1,150	10,550	△9,400	10.9
事業費及び管理費	5,540,192	4,906,059	634,133	112.9

2021年度監査報告

2022年(令和4年)7月26日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会
会長 河合 俊宏 様

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会
2021年度(令和3年度)監査報告書

私たち監事は、当協会定款第60条の規定に基づき2021事業年度(2021年7月1日より2022年6月30日まで)の監査を実施したので、その方法および結果について以下の通り報告します。

1. 監査の方法および内容

各監事は、理事および事務局長と意思疎通を図り、オンライン形式となった理事会に出席して事業報告を受けたほか、会計帳簿ならびに決算書類につき閲覧調査しました。

2. 監査結果

- 1) 業務執行状況について監査した結果、理事の職務は法令および当会の諸規定に則り執行されたことを確認しました。
- 2) 決算報告書、証拠書類等について監査した結果、本会の財産は適正に管理されていたものと認めます。

3. 付帯意見

- 1) わずかですが会員数が増加しました。コロナ禍により効果的なPRが制限される中、地道な事業活動をされ、会勢維持・拡大に努力された成果の顕れと考えます。
- 2) 3年連続で単年度黒字となりました。事業費節減努力とオンライン化による管理費削減の効果によるものです。一方で、会議をすべてオンラインで行うことの弊害が一部見られました。理事会におかれては、とくに新体制で事業を始める際や事業計画をまとめる時期は対面でもコミュニケーションを取ることをご検討ください。
- 3) 昨年度も意見として述べましたが、地域支部やSIGの活動はさらに重要になってきています。幅広い会員の積極的な参画を得て、障害のある方の生活を豊かにする活動がさらに活発化することに期待します。
- 4) 事務局体制の強化は、事業継続、しいて言えば協会存続のための喫緊の課題です。具体策を打ち出されるよう希望します。

監事 伊藤 和幸 印

監事 赤澤 康史 印

第3号議案 2022年度事業計画(案)

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2022年度事業方針

2022年度の事業について説明します。定時社員総会は、9月3日(土)に Web 会議システムを使って、開催します。多くの会員の皆様の参加を期待しています。まず昨年10月の個人情報管理の問題は、2月から新しい会員番号の付与ということで、いくつかの対策を実施しました。一方で、周知には問題もあり、会員の皆様には、ご心配に加え、お手数をおかけすることになりました。重ねてお詫び申し上げます。協会誌をお届けする際に、新しい会員番号を宛名ラベルに記載しております。協会誌の中身が気になる場所ですが、封筒のラベルも、再度ご確認ください。対策はまだ十分に完了していません。継続して実施していますので、あらためてご報告いたします。

2021年度内から、新たな活動としてリハ工 ミライ・アッセンブリーを始めました。3月にキックオフをして、2回目も具体的になっています。協会からのメールニュースを、楽しみにしておいてください。リハ工 ミライ・アッセンブリーは、支部との協力関係を密にとりながら、会員向けに限らない情報発信の場として、定期的に開催します。今後 SIG との連携も検討します。会員の皆さんの積極的な参加、相談先に困っている方、いろいろな組み合わせで、幅広い展開を実現します。5月には、第9回合同シンポジウムを、開催しました。同様に全国頸髄損傷者連絡会とは、今後も継続的に共同します。機器支援の点だけに限りませんので、他の患者・障害当事者団体とも、連携して参ります。また、専門職の全国研修会との連携の話もあります。多くの関連学会との連携は、継続性の点で、難しいところがありました。今後は、会員の皆様のネットワークに期待をしているところです。いろいろなお話を、身近な理事、ホームページ経由、直接会長に、幅広く、意見をいただきたいと思っています。お気軽にコンタクトしていただければと思います。

8月20日(土)・21日(日)には、第36回リハ工学カンファレンス from 中国・四国支部を開催します。巷では対面イベントが増えている感がありますが、国際会議での COVID-19 感染爆発や、一定のリスクがある方の重度化の話を聞きますと、会員の皆様に対する安全・安心の点で、オンラインで開催することを早くから決めていただいたことを誇りに思い、安堵しております。発表する皆様、参加される皆様、実行委員会の皆様、協賛いただいている企業の皆様、よろしく願います。会期中には福祉機器コンテスト2022の受賞作品の発表および表彰も行います。2021年度を超える応募をいただきまして、審査も順調に進んでいます。機器の実物展示には課題がありますが、ホームページや SNS の活用、マスコミの皆様の報道経路等で、入賞作品に対する個別対応に関しても、知見を得ています。即応には難しさがありますが、開発・製作の方につなぐ仕組みになると思います。

他団体との連携は、GAATO に代表される国際連携は、確実に進めています。アジアでの国際会議も対面式を基本に、進められています。内容として、3Dプリンターに関するところが、国内だけでなく、国際的にも課題に挙げられます。設計と製造、少量対応と大量生産、素材開発と流体対応、進むたびに新たな課題が出てくる分野と思われるので、幅広い情報収集と、誰のためという集約技術の確立のためにも、多くの関心ある皆様の参画を期待しています。協会には SIG 自助具もあります。有機的に連携して参ります。関連学会・協会・行政・業界団体の皆様とは、機会を設けていただき、ご挨拶を継続させていただいています。医学会系統は、難しいところで、賛助会員の皆様すべてには、残念ながら、まだご挨拶出来ておりません。機会をつくって参りますが、会員の皆様のネットワークで、サポートしていただけると、助かります。災害対策に関しては、委員会が積極的に動いています。JRAT と連動する意味は大きいと感じています。一方で、旧知の方からは、協会が果たすべき案件を投げかけられている部分もありますので、委員会主導で協会として何ができるのか、検討します。

協会が一般社団法人としての内部に抱える課題を更に解消していきます。個人情報保護、特定商取引等の懸案には、より適切な活動を進めます。インボイス等の国の動きにも対応して、適切な財務体制を、いま一度徹底して参ります。最後になりましたが、会員の皆様、これから会員になってくださる皆様、本年度もよろしくお願ひします。

会長 河合俊宏

1. 事業

1-1. リハ工学カンファレンス関連(カンファレンス担当理事)

1) 第36回リハ工学カンファレンス準備

第36回リハ工学カンファレンス from 中国・四国支部の開催準備を行う。

- ・ 会期:2022年(令和4年)8月20日(土)~21日(日)
- ・ 会場:Web会議システム
- ・ 大会テーマ:リハ工学が変わる!住み続けられるまちづくり
- ・ 大会長:鈴木太理事(愛媛県障害者連合会)
- ・ 実行委員長:谷口公友氏(広島国際大学)

2) 第37回リハ工学カンファレンス準備

第37回リハ工学カンファレンスの開催準備を行う。

候補地としては東京で実施する方向で検討する。

3) 第38回リハ工学カンファレンス準備

第38回リハ工学カンファレンスの開催準備を行う。

4) UMIN(大学病院医療情報ネットワーク)継続利用

1-2. 福祉機器コンテスト関連(コンテスト担当理事)

1) 福祉機器コンテスト2022

- ・ 第二次選考会 2022年8月6日(土)
機器開発部門:プレゼンテーション審査
学生部門:書類・ビデオ審査
於:Web会議システムまたは対面形式、ハイブリッド形式による実施(予定)
- ・ 発表・表彰(予定):第36回リハ工学カンファレンス from 中国・四国支部内のプログラム
8月20日(土)~21日(日)
於:Web会議システムによる実施(予定)

2) 福祉機器コンテスト2023

- ・ 特別協賛:(予定)フランスベッド株式会社
- ・ 協賛:(予定)株式会社有菌製作所、株式会社ケーブ、日本3Dプリンター株式会社
- ・ 後援:(予定)厚生労働省、経済産業省、公益財団法人テクノエイド協会
公益社団法人日本理学療法士協会、一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会
一般社団法人日本作業療法士協会、一般社団法人日本車椅子シーティング協会
一般社団法人日本義肢装具学会、一般社団法人日本生活支援工学会

バイオメカニズム学会、一般社団法人日本人間工学会
特定非営利活動法人バイオフィリアリハビリテーション学会

- ・ 福祉機器コンテスト 2023 事務局(2023年3月1日～)、選考委員会の設置(2023年4月1日～)
- ・ 募集対象:機器開発部門、学生部門
- ・ 広報開始・応募要綱配布:4月中旬
- ・ 募集期間:機器開発部門 5月～6月、学生部門 5月～7月
- ・ 展示・広報(予定):キッズフェスタ(東京都)展示会(広報)4月
- ・ バリアフリー2023(大阪府)展示会(広報)4月

3)コンテスト発展のための取り組み

- ・ コンテストの企画内容及び運営方法を見直す

1-3. 協会誌関連(協会誌担当理事)

1)協会誌編集

- ・ 年4回、協会誌の発行に合わせて必要に応じ会場の確保を行い、編集委員会を開催する
- ・ コロナ禍での電磁的開催は定着したが、会場利用での対面開催のメリットも大きいため、年2回の対面開催を行う

2)協会誌発行

- ・ 以下の協会誌を発行予定

2022年度

Vol.37 No.3 2022/08 特集「教育とVRテクノロジーの発展について(仮)」

Vol.37 No.4 2022/11 特集「デジタル(ICT)で支える障害児・者の暮らし(仮)」

Vol.38 No.1 2023/02 特集「高齢者の活動と参加を支援する福祉用具(仮)」

Vol.38 No.2 2023/05 特集「車椅子・シーティング関連(仮)」

- ・ お知らせ記事掲載内容の見直しを図る

3)投稿論文(査読依頼)

- ・ 早期に査読委員会を設立し、新たに査読委員会内規のもと、投稿論文の査読者の確保と依頼、迅速な査読、査読依頼と結果通知の電子化を行う

4)協会誌の段階的電子化

- ・ 協会誌電子化作業のうち、J-STAGE 登載を、株式会社ジェイピーシーに継続委託する

1-4. 分科会・支部(分科会(支部)・専門委員会担当理事)

1)支部への活動支援

- ・ 会員はいずれかの地域の支部に所属し、各支部ではリハ工学に関わる人的ネットワークを構築している。協会誌やホームページで全支部からの情報を掲載し、会員への周知を図っている。支部ごとで活動状況に差があるので、2022年度は本部や他の委員会と協力し、さらなる支部活動への支援を積極的に行う
- ・ 継続的な活動が行えるよう、活動経費として支部活動金の配分を行う
- ・ 2022年度も引き続き支部活性化のための情報発信の簡便化や効率化などについて検討する

2)2022年度活動計画(期間:2022年7月～2023年6月)

- ・ 詳細は「支部の2022年度事業計画」として別紙に示す

1-5. 分科会・SIG(分科会(SIG)担当理事)

1)SIG 活動支援

- ・ 現在設立されている 10 SIG は、それぞれ主体的に活動内容を企画・実施しつつ、時に複数 SIG 間で協同の事業を行っているなど 10 グループの活動組織は、当法人が企画する事業を実現化する際に大変頼りになるパートナーである。これまでも当法人が企画・参画・運営する事業(講習会やコンテスト、協会誌の査読、リハ工学カンファレンスなど)実施に際して法人内 SIG・協力 SIG と協働しており、2022 年度以降も同様に協働しながら当法人の活動を活性化していく
- ・ SIG の活動を支援するために、引き続き、協会誌やホームページへの情報掲載の運用を行い、各 SIG と情報交換しながら情報発信を進めていく
- ・ 2022 年度中に協力 SIG の法人内移行のための法人内 SIG を設立し、法人外 SIG については、並行して残務・財務の整理を行ったうえで、2022 年度中に解散できるよう覚書を交わすなどの作業を行っていく

2)SIG の位置づけ検討委員会支援

- ・ 2022 年 10 月 30 日までの設置期間内で、全 SIG の内部化の道筋が経った時点で、活動を終了する予定である
- ・ 協力 SIG を法人内 SIG へと移行するための方策の検討と諸規定の整備などを行う
- ・ Web(Chatwork)を通じた委員会の開催と、必要に応じて委員会の対面開催や SIG との打ち合わせを行う

2022 年度活動計画 期間:2022 年 7 月～2023 年 6 月

※SIG 会員数(協会員数)は 2022 年 6 月 1 日現在

SIG 姿勢保持	http://www.resja.or.jp/posi-sig/	会員数:125 名(30 名)
代表者:繁成剛(長野大学)	事務局長:児玉真一	
<ul style="list-style-type: none"> ・Web サイト運営、会員専用 ML への情報発信、協会事業への協力 ・書籍(小児から高齢者までの姿勢保持・第2版)や資料集 PDF 版の販売 ・役員会の開催:開催予定 日程:2022 年 12 月末 オンライン会議(予定) ・講習会:開催予定(日程・方法・場所未定) 		
車いす SIG	https://www.resja.or.jp/wc-sig/	会員数:48 名(36 名)
代表者:沖川悦三(神奈川県総合リハビリテーションセンター)	事務局長:深野栄子	
<ul style="list-style-type: none"> ・車いす SIG 講習会 50 回開催記念大会 2022 年 9 月 17 日(土)～18 日(日) 会場:一般社団法人 日本福祉用具評価センター(JASPEC) ・車いす SIG 講習会(小児編)日時、場所未定 ・役員会の開催、Web サイト運営、テキスト発行、分科会(BOG)活動、大規模災害復興支援、協会事業への協力 他 		
自助具 SIG	ホームページなし	会員数:9 名(9 名)Facebook グループ登録者(46 人)
代表者:岡田英志(ヒューマン)	事務局長:岡田英志(ヒューマン)	
<ul style="list-style-type: none"> ・第 36 回リハ工での「3D プリンター自助具の検討会企画」 ・3D プリンター研究会設立 		

乗り物 SIG	https://ameblo.jp/sunrisejp007/	会員数:5名(5名)
代表者:麩澤孝(有限会社セカンドステージ)	事務局長:片石任(株式会社フロンティア)	
<ul style="list-style-type: none"> ・SIG ブログの更新、充実、情報提供 ・分科会(BOG)活動、協会事業への協力 		
SIG 褥そう防止装置	http://www.resja.or.jp/sig-pmps/	会員数:20名(10名)
代表者(事務局兼務):新妻淳子(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新、褥瘡学会との連携(委員派遣・セミナーの後援) ・COVID-19 対応指針作成・遠隔支援・役員会合・オンラインセミナーの開催・会員募集 ・11月開催の日本シーティング・シンポジウムの後援、SIG 会員からの講演者派遣 		
コミュニケーション SIG	http://www.resja.or.jp/com-sig/	会員数:67名(20名)
代表者:渡辺崇史(日本福祉大学)	事務局長:上野忠浩(横浜市総合リハビリテーションセンター)	
<ul style="list-style-type: none"> ・講習会開催、協会事業への協力等 		
SIG 住まいづくり	http://www.resja.or.jp/sumai-sig/	会員数:60名(38名)
代表者:橋本美芽(東京都立大学)	事務局長:鈴木基恵(横浜市総合リハビリテーションセンター)	
<ul style="list-style-type: none"> ・講習会開催 ・協会事業への協力 ・Web サイトリニューアル検討 		
特別支援教育 SIG	ホームページなし	会員数:5名(5名)
代表者:松田靖史(川村義肢株式会社)	事務局長:高原光恵(鳴門教育大学)	
<ul style="list-style-type: none"> ・協会事業への協力 ・特別支援関連情報(身近な教材・活用例)の収集、情報提供 		
移乗機器 SIG	2022年度に協会内 SIG を設立予定 新ホームページ未定	会員数:33名(13名)
代表者:古田恒輔(神戸学院大学)	事務局長:青木久美子	
<ul style="list-style-type: none"> ・協会事業への協力(旧 SIG 解散のため、協会内に SIG 設立後に事業計画を立てる予定) 		
義肢装具 SIG	http://www.resja.or.jp/po-sig/	会員数:82名(25名)
代表者:笹川友彦(熊本総合医療リハビリテーション学院)	事務局長 砂野義信(フリーランス)	
<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインセミナー2回開催 SIG 会員向け参加費無料 SIG 役員による義肢装具トピックスを中心に ・新形式での講習会 コロナ禍での新しい形式の講習会開催 ・義肢装具 SIG ホームページ運営 		

1-6. 災害対策関連事業(災害対策担当理事)

1) 災害対策セミナーの開催

- ・ 運営は災害対策委員会を中心に各 SIG や支部の協力を仰ぎながら企画し、リハ工学による災害対策の啓発、技術伝承及び、災害時の福祉用具や住環境改善の対応等の内容から検討する
- ・ 専門職向けやリハ工学に興味のある方等を対象とする
- ・ 対面開催を基本とするが、オンライン開催なども視野に、コロナ禍の状況を見ながら実施を検討する

2) 災害対策委員会の運営と大規模災害時の協会の対応

- ・ 他団体との協力体制を構築するとともに、被災地調査、平時の災害対策啓蒙などを実施する
- ・ 近年、複数の災害関連団体が発足している。協会としての特徴を生かす新しい団体との連携についても検討する

2022年度の主な活動は以下の通り。

- ・ 災害対策セミナー等の企画・実施
- ・ 障害を持つ人の防災マニュアル(仮称)の作成
- ・ 一般社団法人日本福祉用具生活支援用具協会(JASPA)の災害復興車椅子メンテナンス事業に参加
- ・ JRAT 活動への参加
- ・ 地域 JRAT と協会支部との連携の検討
- ・ JRAT、一般社団法人日本車椅子シーティング協会(JAWS)、JASPA、日本福祉用具供給協会などの連携の窓口対応
- ・ DWAT(Disaster Welfare Assistance Team:災害福祉支援チーム)等の他団体との関係性についての検討
- ・ その他、災害対策委員会が独自に必要と認めたこと

1-7. 企画推進事業(企画担当理事)

協会の広報活動及び会員獲得に向けた PR 活動、公益活動のために以下の展示会出展及び出展社セミナー等の開催を行う。

1) 研修企画委員会の運営

- ・ 新たな会員獲得及びリハ工学に関する知識や技術の普及促進
- ・ 新たな会員獲得及びリハ工学に関する知識や技術の普及促進を目的に、リハ工 ミライ・アッセンブリの開催

2) 合同シンポジウムの開催

- ・ 協会だけではなく外部団体と連携し、ジャンルを超えた意見ディスカッションを実施することで、障害当事者の一助になるシンポジウムを開催する

1-8. 事業統括(事業統括理事)

1) 学会展示会、広報活動強化

以下の展示会等へブース出展し、広報活動を実施する。その際には各地域の支部で運営するように体制整備を併せて行っていく。

- ・ バリアフリー2023(2023年4月 於:インテックス大阪(大阪府))
- ・ その他各地域で行われている福祉機器展や関連学会についても、可能な範囲で出展を行い協会の広報等を行う。各地域支部や SIG との協力を積極的に進めると同時に、可能な限りセミナー実施とセットで行う

2) セミナー開催

各福祉機器展において出展機会を有効活用し、出展効果の向上とリハ工学に関する普及を促進する目的で、積極的に出展社セミナー・ワークショップを開催していく。

- ・ バリアフリー2023(大阪府)での出展社ワークショップを企画・開催
- ・ その他の地域で開催される福祉機器展においても、支部・SIG 等と協力してセミナーの開催を検討する

3) 情報保障の拡充

障害者差別解消法の施行により、障害のある人に対する情報保障を実施する必要がある。協会においても、主催セミナーやシンポジウム、支部事業、カンファレンス等において情報保障の実施が求められており、そうした社会情勢に対応するための体制づくりを継続して行う。

1-9. 国際関連事業(国際担当理事)

1)国際関連団体との相互協定に基づく交流

- ・ GAATO への参加と連携
- ・ i-CREATe への参加と会員への情報提供

2)国際連携推進委員会の開催

- ・ 理事会のもとに、協会の国際連携等についてのアドバイスを行う国際連携推進委員会を設置し、Web 会議システムにて年に2回程度の委員会開催を予定

2. 総務

2-1. 規則・選挙(規則・選挙担当理事)

1)2023 年度役員候補者選挙

- ・ 2023 年度役員候補者選挙を実施する

2)規程の整備

- ・ 各種規程を整備し、必要に応じて改定を行う

2-2. 財務(財務担当理事)

1)法人会計の管理

- ・ 2022 年度決算の実施
- ・ 2023 年度予算案の提案
- ・ 四半期決算の実施

2)分科会・支部の連結決算の準備

- ・ 会計システムの再構築
- ・ 会計システムの統合

2-3. 総会・理事会(総会・理事会担当理事)

1)2022 年度理事会の開催

- ・ 年 5 回、定例の理事会を開催する
- ・ 時期は 2022 年 7 月、10 月、12 月、2023 年 3 月、6 月とする
- ・ Web 会議システムの利用を基本とするが、必要に応じて対面開催とする

2)2022 年度定時社員総会の開催

- ・ 2022 年 9 月に定時社員総会を開催する
- ・ 開催に必要な最少人数のみ集まる

日時:9 月 3 日(土) 11:00~12:00

会場:加瀬ビル88 8 階 第 6 会議室(神奈川県横浜市港北区新横浜 3-19-11)

2-4. 広報・渉外(広報・渉外担当理事)

1)協会リーフレット印刷

- ・ 協会案内用リーフレット印刷

2)Web 会議システム利用

- ・ Web 会議システムを活用し、効率的で経費負担の少ない事業運営を目指す

3)Web 管理委員会の運営

- ・ 協会ホームページを維持・管理し、適切に更新していく
- ・ 協会公式 SNS 活用の促進と追加の検討

2-5. 事務局(事務局担当理事)

1) 事務局運営

- ・ 法人としての事務局を運営し、法人会計の更なる整備を進める

2) 会員情報管理システム導入検討

- ・ 事務局体制支援を含めたシステム導入について検討する
- ・ イベント、セミナー等の集金システムを活用する

3) 展示会出展における広報活動

3. 後援・協賛事業

後援・協賛予定事業(主催団体と内容)は下記の通りである

No		団体名	開催日程	内容
1	協賛	一般社団法人日本機械学会、一般社団法人ライフサポート学会、一般社団法人日本生活支援工学会	2022/8/19~21	LIFE2022
2	協賛	特定非営利活動法人 ヒューマンインタフェース学会	2022/8/31~9/2	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2022
3	後援	一般社団法人日本作業療法士協会	2022/9/16~18	第 56 回日本作業療法学会

【別紙】

支部の2022年度事業計画

東日本支部

1)概要

昨年度に引き続き今年度も早期に組織の編成を行い、今後の活動計画の策定に努めたい。東日本支部は広域であり、会議・セミナー・勉強会などについては、Web 会議システムなどを活用したいと考えている。東日本大震災などの災害の経験を活かして地域 JRAT と支部の協力体制を構築していきたい。

関東・甲信越支部

1)概要

関東・甲信越支部活動として、昨年度より掲げている「災害対策キャンプ」のテーマを継続していく。その中で、食事に限らず寝泊まりや排泄といった必要な動作場面を環境や道具などを支援者や当事者の視点で整理し、Web 会議システム等を用いたオンラインの会議・セミナー・勉強会の場で情報発信や意見交換することを計画していく。

2)主要事業

(1)災害対策キャンプの企画・運営

時期:未定

場所:未定

内容:災害時、避難先での寝泊まりや食事、排泄などを想定した道具等の利用検証や意見交換会を実施予定

3)その他

(1)支部役員会の開催

日時:必要に応じて開催

場所:Web 会議システムを予定

内容:2021 年度の事業報告・決算報告、2021 年度の事業計画案・収支予算案についての検討や各イベントの企画調整等

4)2022 年度支部役員体制

代表: 沖川悦三(神奈川県総合リハビリテーションセンター:継続)

幹事: 水澤二郎(一般財団法人啓成会:継続)

深野栄子(日本リハビリテーション工学協会:継続)

麩澤孝((有)セカンドステージ:継続)

植田瑞昌(日本女子大学:継続)

片石任(株式会社フロンティア福祉本部:継続)

河合俊宏(埼玉県総合リハビリテーションセンター:継続)

白鳥智子(山梨県立あけぼの医療福祉センター:継続)

鈴木明子(野のすみれクリニックリハビリテーション科:継続)

岡野善記(継続)

石濱裕規(医療法人社団永生会:継続)

森田千晶(神奈川県立保健福祉大学:継続)

事務局:神奈川県リハビリテーション病院研究部内 村田知之

連絡先:kkse@resja@or.jp

中部支部

1)概要

年間 2 回程度の支部セミナーを主催するとともに、各種勉強会を開催する。さらに、関係諸活動の後援など、リハビリテーション工学に関わる研究や知識・技術等の普及・啓発を図る。

2)主要事業

(1)支部セミナーの開催

①開催日:2022 年(実施日未定)

場所:ハイブリッド開催(会場は愛知県内(予定))

テーマ: ハイブリッド福祉用具見学会

講師: 中部支部会員

②開催日:2022 年(実施日未定)

場所:ハイブリッド開催(会場は未定)

テーマ:機器活用勉強会及び事例検討会

講師:中部支部会員

3)他学会等の事業への後援・協賛・協力

後援・協賛・協力依頼等があれば、随時検討する。

4)その他

支部役員会の開催(随時開催予定)

場所:基本的に Web 会議システムにて実施する

5)2020 年度支部役員体制

代表: 渡辺崇史(日本福祉大学:継続)

幹事: 北野義明(石川県リハビリテーションセンター:継続)

安田秀一(金沢市社会福祉協議会:継続)

長束晶夫(なごや福祉用具プラザ:継続)

事務局:日本福祉大学 渡辺崇史

連絡先:wata-t@n-fukushi.ac.jp

関西支部

1)概要

年間 1 回程度支部セミナーを主催するとともに、各種勉強会を開催する。さらに、バリアフリー2023 の出展協力やミライ・アッセンブリーでのセミナー開催など、協会活動への協力をを行い、リハビリテーション工学に関わる研究や知識・技術等の普及・啓発を図る。

2)主要事業

(1)支部セミナーの開催(年間 1 回程度)

2022 年度関西支部セミナー

開催日:2022 年 11 月 6 日(日)13:00~15:00(最大 15:30 まで)

場所:神戸学院大学 神戸三宮サテライト(ミント神戸 17 階)もしくは Web 会議システムによる開催

テーマ:電動車椅子製作における地域格差について

講師:関西地域の 4 名の当事者を予定

(2)第 2 回リハエミライ・アッセンブリーでのセミナー開催

テーマ:3D CAD と 3D プリンターの組み合わせで自助具を創るプロジェクトの紹介

- ・ 前編(3D プリンター用データ制作)
開催日:2022年7月9日(土)10:00~16:00
場所:神戸芸術工科大学プロダクト・インテリアデザイン学科
- ・ 後編
開催日:2022年8月26日(金)18:00~の予定
場所:Web 会議システムによる開催

(3)バリアフリー2023 運営協力及び出展社セミナーの開催

開催日:未定
場所:インテックス大阪
テーマ:未定
内容:ブース運営スタッフの派遣、出展社セミナーの開催

3)他学会等の事業への後援・協賛・協力

今のところ予定なし

4)その他

支部役員会の開催

日時:未定

場所:大阪、神戸、及び Web 会議システムも検討

内容:2022 年度の事業報告・決算報告、2023 年度の事業計画案・収支予算案について支部セミナー等の企画検討など

5)2021 年度支部役員体制

支部長: 相良二郎(神戸芸術工科大学:継続)

副支部長: 金井謙介(the Light on Design Project:継続)

島本卓(兵庫県頸椎損傷者連絡会:継続)

幹事: 赤澤康史(兵庫県立福祉のまちづくり研究所:継続)

川村慶(川村義肢株式会社:継続)

剣持悟(川村義肢株式会社:継続)

杉本昌子(パシフィックサプライ株式会社:継続)

中村俊哉(兵庫県立福祉のまちづくり研究所:継続)

松田靖史(川村義肢株式会社:継続)

宮野秀樹(非営利活動法人ぼしぶる:継続)

事務局長: 糟谷佐紀(神戸学院大学:継続)

連絡先:〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬 518 神戸学院大学総合リハ学部糟谷研究室
078-974-1920(Tel/Fax) /kansai@resja.or.jp

中国・四国支部

1)概要

2022 年度は、第 36 回リハ工学カンファレンスを中国四国支部で担当するため、8 月の開催日までは、すべての役員は実行委員会に所属し準備にあたる。カンファレンス後、支部担当理事と相談しながら、年 1 回程度の支部セミナーを検討する。

カンファレンスの広報を通じて、リハビリテーション工学の普及・啓発を図る。

2)主要事業

(1)第36回リハ工学カンファレンス from 中国・四国支部

開催日:2022年8月21日(土)22日(日)

場所:Web会議システムにて実施

運営事務局は広島国際大学に置く

テーマ:「リハ工学が変わる!住み続けられるまちづくり」

(2)支部セミナーin 高知ふくし総合フェア(福祉機器展)

開催日:2022年11月19日(土)20日(日)

場所:高知ちばさんセンター

テーマ:「当事者こそが変わる!人手不足の介護現場(仮)」

講師:中国四国支部役員で実施

(3)「リハエミライ・アッセンブリー」の開催協力

カンファレンス終了後、支部担当理事と相談し検討

3)他学会等の事業への後援・協賛・協力

特になし

4)その他

支部役員会の開催

- ・ カンファレンス終了までは役員はすべて実行委員会に所属しカンファレンスの準備に専念する
- ・ カンファレンスの実施後の委員会が終了後、支部役員会を再開する

5)2022年度支部役員体制

代表:下元佳子(一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク)

幹事:鈴木太(愛媛県障害者連絡会)

谷口公友(広島国際大学)

事務局:福島寿道・高橋一郎(一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク)

連絡先:一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク

高知県高知市本町3-6-37 088-821-7756/nhn@nhcn.jp

九州支部

1)概要

年間1回程度支部セミナーを主催するとともに、各種勉強会を開催する。さらに、関係諸活動の後援など、リハビリテーション工学及び福祉機器に関わる研究や知識・技術等の普及・啓発を図る。

2)主要事業

支部交流会の開催

九州支部オフラインミーティング

開催日:2022年11月(未定)

場所:西日本総合展示場 新館(北九州市小倉北区浅野3-8-1)

※第24回西日本国際福祉機器展において、展示ブースを巡りながら出展社及び来場者(会員も含む)とディスカッションする

3)他学会等の事業への後援・協賛・協力

依頼を受けて検討

4)その他

支部役員会の開催

- ・ 主としてメールリストで意見・情報交換を行う。適宜、Web 会議システムにて開催する

5)2022 年度支部役員体制

代表:小林博光(総合せき損センター:継続)

スタッフ:江原喜人、山形茂生 ※交代や追加の可能性あり

連絡先:koy@resja.or.jp

第4号議案 2022年度収支予算計画(案)

2022年度 予算案

収入		単位:円		
コード	勘定科目	2021年度	2022年度	前年比
	<入金収入>	50,000	50,000	0
1411	入金(今年度分)	50,000	50,000	0
1412	入金(前納分)	0	0	0
	<会費収入>	7,900,000	7,600,000	△ 300,000
416	一般会費(今年度分)	5,800,000	5,600,000	△ 200,000
1416	一般会費(前納分)	1,100,000	1,000,000	△ 100,000
1417	一般会費(下半期分)	100,000	100,000	0
1419	一般会費(過年度分)	100,000	100,000	0
1420	学生会費(今年度分)	80,000	80,000	0
1422	学生会費(下半期分)	20,000	20,000	0
1423	賛助会費(今年度分)	100,000	100,000	0
1424	賛助会費(前納分)	600,000	600,000	0
	<事業収入>	2,152,000	2,202,000	50,000
421	書籍頒布	100,000	100,000	0
422	協会誌広告収入	160,000	160,000	0
423	協会誌掲載料	130,000	130,000	0
1430	購読サービス会費今年度	110,000	110,000	0
1431	購読サービス会費(前納分)	52,000	52,000	0
一	カンファレンス関係収入	200,000	200,000	0
428	セミナー収入	300,000	350,000	50,000
426	事業費雑収入	500,000	500,000	0
429	その他の協賛金	600,000	600,000	0
	<雑収入>	5,000	5,000	0
471	受取利息471	5,000	5,000	0
472	雑収入472	0	0	0
	【合計】	10,107,000	9,857,000	△ 250,000

部門別支出

No.	部門名	所属組織	2021年予算	2022年予算	前年比削減額
1	理事	理事会	1,330,000	880,000	450,000
10	事務・管理	総務系	1,858,786	1,718,786	140,000
15	組織管理	総務系	210,000	210,000	0
20	広報	総務系	31,100	778,620	△ 747,520
25	国際関連	事業系	355,000	360,000	△ 5,000
30	企画推進	事業系	730,000	630,000	100,000
35	専門委員	事業系	560,000	580,100	△ 20,100
40	SIG	事業系	550,000	550,000	0
50	支部	事業系	300,000	300,000	0
60	事業管理	事業系	765,000	625,000	140,000
70	カンファ・コンテ	事業系	247,500	237,500	10,000
80	協会誌	事業系	3,160,000	2,960,000	200,000
85	受託事業	事業系	0	0	0
90	予備・その他	その他	0	0	0
総合計			10,097,386	9,830,006	267,380
			2022予算収支		26,994

第5号議案 自主行動基準(案)

当協会の自主行動基準については、定款第24条により社員総会で承認を得ることとなっている。以下に示す自主行動基準(案)について、ご承認の審議をお願いしたい。

【参考】 定款第 4 条 当法人は、社員総会が別に定める自主行動基準(倫理規定)の理念と規範に則り、事業を公正かつ適切に運営し、前条に掲げる公益目的の達成と社会的信用の維持・向上に努める。

定款第 24 条 社員総会は、次の事項を議決する。

(略)

(7) 社員総会規則並びに自主行動基準の変更

-----以下、今回提案する自主行動基準(案)-----

自主行動基準(案)

(前文)

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会(以下当協会という)は、生活を行う上で障害を有する当事者に対し、その生活を豊かに実現するための工学的支援技術を発展・普及させるとともに、この技術を通じて学術・文化・産業の振興に寄与することを目的として活動している。この活動に際して、法令を遵守し、社会における使命と責任を自覚する。そのための行動規範を定める。

(社会的責任)

当法人は、その目的に従い、当事者の生活を豊かに実現するための工学的支援技術の発展・普及に貢献する重大な責務を負っていることを認識し誠実に行動するとともに、支援技術による学術・文化・産業の振興への寄与によって、社会的信用の維持・向上に努めなければならない。

(法令等の遵守)

当法人は、関連法令及び定款、その他の内規を厳格に遵守し、社会的規範にもとることなく、適正に事業を運営しなければならない。関連法令のうち、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律、個人情報保護に関する法律、特定商取引に関する法律などで、開示・公開が求められる事項については、可及的速やかにこれを実施する。関連法令の改正が行われた場合には、対応する規定の改正を行う。

(障害者権利条約)

当法人は、日本も批准している「障害者の権利に関する条約」(略称「障害者権利条約」)で定められている、(1)一般原則(障害者の尊厳、自律及び自立の尊重、無差別、社会への完全かつ効果的な参加及び包容等)、(2)一般的義務(合理的配慮の実施を怠ることを含め、障害に基づくいかなる差別もなしに、すべての障害者のあらゆる人権及び基本的自由を完全に実現することを確保し、及び促進すること等)、(3)障害者の権利実現のための措置(身体的自由、拷問の禁止、表現の自由等の自由権的権利及び教育、労働等の社会権的権利について締約国がとるべき措置等を規定)に賛同し、これを遵守し、条約の実施のための工学的支援の提供を追求する。

(当事者の参画)

当協会は、障害者権利条約の起草過程で繰り返し使われたスローガン「“Nothing About Us Without Us” (私たちのことを、私たち抜きに決めないで)」の精神を重んじ、当協会の事業及び活動について当事者の参画を積極的に進めるものとする。

(障害者差別の解消)

当協会は、「障害者権利条約」ならびに、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(略称「障害者差別解消法」)を順守し、障害を理由として差別すること、およびその他の権利利益を侵害する行為を行わない。また、障害者差別解消法が目指す、「障害のある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながら、共に生きる社会」の実現のため、工学的支援技術の発展をもってこれに寄与していく。

(人権保護とあらゆる差別の排除)

当法人は、その事業・活動において、障害を理由とする差別以外にも、疾病、人種、出身地域、出身国、宗教、信条、性別、年齢、または性的指向等によって個人を差別せず、人権を保護し、自由と人格を尊重する。

(研究倫理)

当協会の目的を達成するための研究活動は、当事者の生活に直結するものであり、高い倫理性が求められる。研究倫理については、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 ガイダンス」に準拠し、リハ工学カンファレンス発表や協会誌投稿などの各規程に従うものとする。

(研究公正・利益相反)

当協会の目的を達成するための研究活動は、正直でフェアなものでなければならない。研究成果の、ねつ造、改ざん、盗用、などの特定不正行為を為さず、また、前人の貢献を誠実に評価して研究成果の公表に際してフェアに明示する。研究公正を保つために、当該研究に関連して起り得る利益相反(COI)について、当事者の不利益にならないよう十分に配慮し、研究計画書に記載しなければならない。研究対象者にインフォームド・コンセントを求める際にCOIについて十分に説明し、発表の際にCOIを開示しなければならない。

(議論)

当法人における支援技術の研究・開発・普及等にかかわる議論や意見交換は、積極的に行われるべきであるが、当事者に適切な支援技術を提供するという共通の目的のもとで、批判的な議論を避け、発展的・建設的な議論が行われるよう努めなければならない。

(国際貢献)

当法人は、GAATO(Global Alliance of Assistive Technology Organization:世界支援技術団体連合)の一員として、国際的な支援技術の普及発展に努めるとともに、GAATOとWHO(世界保健機構)が交わした覚書に従い、支援技術へのアクセスを改善することを目標とした国際的な取り組みに参画する。

(災害対策)

当法人は、災害対策委員会活動および、JRAT(一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会)等の活動を通じて、支援技術を通じて当事者の防災・減災に寄与するとともに、被災当事者に対する支援技術の提供に

積極的に貢献していく。

(本基準の改訂)

本基準は、常に見直し、注釈を加えたり改訂を繰り返したりしながら、よりよいものに発展させ続ける。また、関連法令や指針等の制定や改正の際には遅滞なく対応することとする。本基準の改定は、理事会で審議された後、社員総会で承認されなければならない。

(附則)

本基準は、2022年9月3日より実施するものとする。